



古代から続く祈りの道 - 大和の石仏巡行 -



第2回 地獄谷石窟仏

元 久留米工業高等専門学校教授
伊藤 義文

1. 場所

奈良市の東にそびえる春日山と高円山との谷川に沿って登る滝坂の道は、旧柳生街道と呼ばれ、柳生の里と奈良の街をつなぐ道として、米・薪木・日用品を馬の背に積んだ人々が往来しました。また、宮本武蔵の話にもあるように、柳生の道場を目指す武芸者が歩いた道でもあります。沿道には夕日に染まり美しい「夕日観音」、朝日に映える「朝日観音」、荒木又右衛門の試し斬り伝説の残る「首切り地蔵」、「春日山石窟仏」、「地獄谷石窟仏」などの石仏の群集地があります。地獄谷石窟仏には奈良奥山ドライブウェイ（高円山コース）を辿り、石切峠の近くの駐車場から僅か800mほど地獄谷国有林の中を歩くと、地獄谷石窟仏（聖人窟）に到着します。

2. 歴史

土地の伝説では、昔、この谷は奈良の庶民の死体を捨てた、人捨て場であったと言われていました。死体はこの谷間に転がされ、まさに地獄絵巻の観を呈した所だと言われていました。また、地獄谷石

著者略歴



1947年生まれ。72年、京都大学大学院卒業。以降、民間企業にて真空蒸着技術のフィルム応用や各種包装材料の開発に携わる。2004年、久留米工業高等専門学校教授。15年、退職。

✉ itou910@zeus.eonet.ne.jp

【訂正】

2022年10月号の本連載第1回において、117頁に掲載した地図で以下の誤りがありましたので、訂正させていただきます。

【誤】 広綾町 【正】 広陵町

【誤】 大和高田町 【正】 大和高田市

橿原市の右下、高取町の右上の空白：明日香村

窟仏や春日山石窟仏（次回紹介予定）は東大寺大仏殿を造営するにあたって、石切峠近くの南面傾斜地に露出する凝灰岩を窟状に開窟して石材として切り出した跡です。後年、奈良・平安時代に石窟の壁面に高肉彫り、あるいは線刻して仏像を設置しました。近年、大正13年に国の史跡に指定され、昭和2年3月に上屋を設置しこれを保存するに至っています。現在は風雨を防ぐため、石窟全体が上屋で覆われ周囲を金網で囲って人が入れないようにしています。今回、関係官公庁の許可を得て、石窟の劣化・欠損等の確認のために実測・撮影・観察調査を行いましたので、その結果をご報告します。

3. 仏像

地獄谷石窟仏の仏像配置図を図1に示しますが、奥行2.6m、高さ2.0m、開口4.1mとなっています。石窟仏西側の天井部は大きく崩落しています。

石窟仏の奥の壁には、中尊とその左右に薬師如来立像、十一面観音立像が美しく彫られています（図2）。右壁面には如意輪観音坐像が彫られており、かなり劣化が進んでいます。左壁面には阿弥陀如来像と千手観音像が彫られているらしいのですが、損傷が激しく判別できない状態です。

中尊は蓮華座の上に座り、座高1mの堂々たる骨格と、面相いっぱい描かれた強烈な目の線、唇、耳の形、さらに右手の施無畏印、左手の与願印は東大寺の盧舎那仏とそっくり同じです。吉祥の印である卍の文字が胸に彫られています。二重円光背と蓮華座を含む総丈は1.4mで、衣文は朱色に塗られ、肌には金箔が押されています。なお、衣文や台座部分には黒カビの斑点が多く付着しています（図3）。

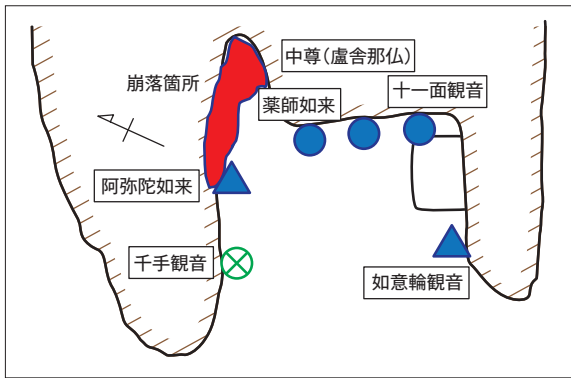


図1 地獄谷石窟仏—仏像配置図

左側の薬師如来立像は像高1.15mで、その印相は中尊と同じです(図4)。中尊と同じく奈良時代後期の作品と思われます。右側の十一面観音立像の総丈は99cm、二重円光背で蓮華座上に立っておられます。室町時代に追刻されたものと考えられます(図5)。

右壁面には如意輪観音坐像が彫られています。座高は79cmで、右手に蓮華を持ち、左手には何も持っておりません(図6)。左壁面には阿弥陀仏と千手観音が彫られているようですが、天井部崩落による欠損が激しく、お顔の一部が残っているだけです。

4. 劣化・欠損状態

地獄谷石窟仏の劣化・欠損状態は次の通りです。

- ①地獄谷石窟仏西側にて天井部の崩落が1カ所見られ、土砂や切り株の堆積が起こっています。その結果、西壁に線刻されている阿弥陀如来像は部分欠損、千手観音像はほぼ全壊状態にあります。
- ②雨が降っている状態では、中尊の盧舎那仏のお顔部分に水が滴り、赤黒い2本の筋が見えましたが、干天後は乾燥して筋は消えています。しかし、中尊の朱色の衣文の部分に数多くの黒点があり、蓮華座の部分は黒ずんでおり、これらはカビが原因と思われます。
- ③6体の仏像のうち、部分欠損しているものが2体、ほぼ全壊しているものが1体ありました。

5. おわりに

地獄谷石窟仏の偉大な芸術性、特に中尊は法隆寺金堂の壁画に比肩しても遜色のない迫力に驚嘆します。しかし、石窟仏は凝灰岩をくり抜いたもので比較的脆い岩質である上に、過去に起こった天井部の崩落が原因となって多くの仏像が欠損しています。上屋を設け風雨を避ける構造となっているにもかかわらず、現在でもかなりの土砂が堆積しており、経年劣化による仏像の欠損や、カビなどによる黒点の付着などの劣化が進んでおります。磨崖仏の保存の難しさを実感した次第です。

地獄谷石窟仏の動画はYouTubeにアップロードしていますので、ぜひ下記のキーワード検索で美しい動画をご覧ください。幸いです。

検索：奈良・地獄谷石窟仏 - YouTube

URL:<https://www.youtube.com/watch?v=iPi4mvreK6E&t>



図2 奥壁の仏像(左:薬師如来立像、中央:中尊、右:十一面観音立像)



図3 中尊(盧舎那仏)



図4 薬師如来立像



図5 十一面観音立像



図6 如意輪観音坐像